

平成29年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

事業名	林道事業 [森林基幹道開設事業 (国補)]		事業箇所	笛吹市一宮町千米寺～甲州市勝沼町上岩崎	地区名	林道京戸岩崎山線	事業主体	山梨県						
(1) 事業着手年度	H5年度	(2) 事業期間	H5年度～H23年度		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,392百万円						
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等									
<p>本路線は、笛吹市一宮町千米寺と甲州市勝沼町上岩崎を結ぶ連絡林道であり、京戸川流域と大口川流域の広範囲な森林を管理経営することを目的とした森林基幹道である。利用区域860haのうち、スギ・ヒノキ・カラマツ等の人工林面積は670ha（人工林率78%）であり、県内でも人工林の割合が高い地域である。今後の森林資源の適正な管理及び、伐採・搬出コストの削減、県土保全・水源かん養などの森林の持つ公益的機能の向上に資する。</p>					<p>既設部分 延長2,734m 幅員4.0m</p> <p>事業評価対象 延長5,232m 幅員4.0m</p> <p>既設部分 延長7,939m 幅員4.0m</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">凡 例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京戸岩崎山線 (評価対象部分)</td> <td>— (Red line)</td> </tr> <tr> <td>京戸岩崎山線 (既設部分)</td> <td>— (Black line)</td> </tr> </tbody> </table> <p>「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号平29情複、第953号)」</p>				凡 例		京戸岩崎山線 (評価対象部分)	— (Red line)	京戸岩崎山線 (既設部分)	— (Black line)
凡 例														
京戸岩崎山線 (評価対象部分)	— (Red line)													
京戸岩崎山線 (既設部分)	— (Black line)													
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果														
<p>(事前評価未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 森林整備の効率化</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防火帯の確保 ・林業生産力の向上 ・リサイクルの推進（間伐材や再生資材の活用） 														
(7) 整備内容（目標達成の方法）														
<p>森林管理道の開設、実施延長5,232m（全体延長15,905m）、幅員0.0m → 幅員4.0m（未舗装）</p>														

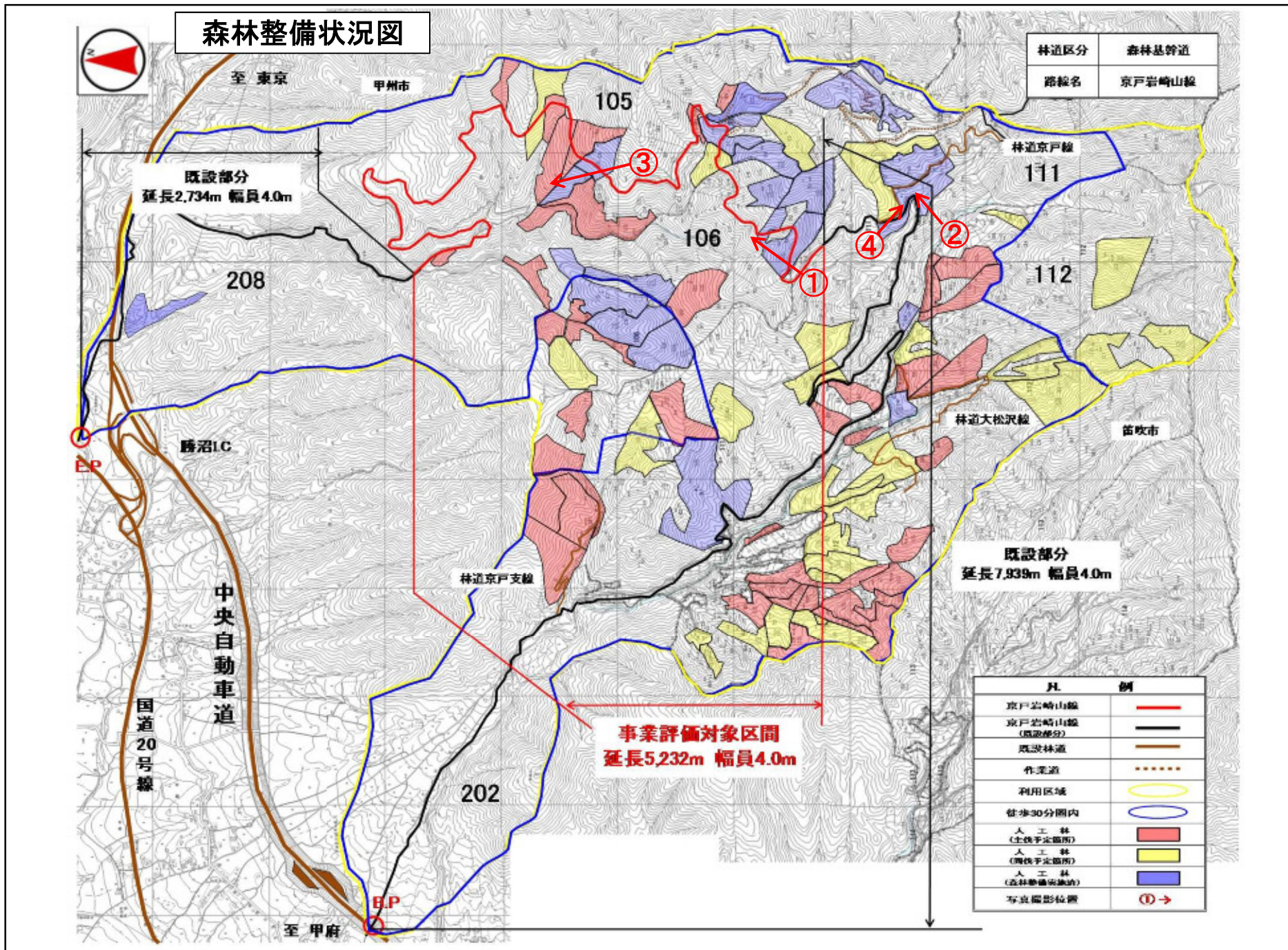
2. 評価シート（1）

<p>(1)事業貢献度 < (良) 不良 ></p> <p>(理由) 林道が開設され森林整備を計画的・効率的に行う条件が整い、県有林管理計画に基づいた主伐、間伐などが実施され、健全な森林が形成されている。また、区域内の森林から間伐材が搬出され、森林資源の有効利用に貢献している。</p> <p>①主要目標 森林整備の効率化 伐採対象人工林割合30% 利用区域内人工林率78%</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:35%;">着手時点数値等</th> <th style="width:35%;">評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td style="text-align: center;">65%</td> <td style="text-align: center;">77%</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>評価時点の数値に対する評価 人工林のうち徒歩30分圏内の区域割合が基準値70%を達成。 整備対象森林に容易に到達できるようになり、間伐を主体とした森林整備が効率的・効果的に実施されている。</p> <p>②副次目標 なし</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:15%;">項 目</th> <th style="width:85%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯の確保</td> <td>防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>林業生産力の向上</td> <td>林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業（労働生産性が2.5倍に向上）が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進（再生資材の活用等）</td> <td>以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、ソケット等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 林道を連絡したことにより流域を越えた施業の共同化や、労働力の広域かつ効果的な配分、機械化の推進など、林業生産基盤のより一層の充実が図られた。 また、森林整備経費縮減等便益を中心に、災害等軽減便益、森林の総合利用便益、木材生産等便益等により合計2,941百万円の事業効果が発現している。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人工林率	65%	77%	項 目	内 容	防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。	林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業（労働生産性が2.5倍に向上）が可能となった。	リサイクルの推進（再生資材の活用等）	以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、ソケット等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。	<p>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 < (有) 無 ></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">1,234百万円</td> <td style="text-align: center;">1,392百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td style="text-align: center;">H5~H20</td> <td style="text-align: center;">H5~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td style="text-align: center;">2,702百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td style="text-align: center;">2,941百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td style="text-align: center;">1.09</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">H15再評価※1</th> <th style="width:50%;">H20再評価※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td style="text-align: center;">1,681百万円</td> <td style="text-align: center;">-</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">H5~H23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 H15再評価 地質が悪かったため、法面保護工等が増額になったことから、総事業費を見直した。 ※2 H20再評価 施工地の一部地権者から同意が得られなかったため事業期間を見直した。</p> <p>(要因変化の分析) ○総事業費 最も経済的な線形を選択したことや、路肩縮減による構造物の縮小等により、H15再評価時から2割縮減できた。 ○工期 時間管理の徹底により、計画期間内で完了した。</p> <p>(3)事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 間伐の実施により下草等植生が繁茂し保水能力の上昇や降雨による表土の流出が少なくなる等の公益的機能が向上している。 また、森林整備を実施することで健全な森林となり、地球温暖化防止に貢献している。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合） なし</p> <p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 なし</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,234百万円	1,392百万円	工期	H5~H20	H5~H23	経済効率性	費用	2,702百万円	便益	2,941百万円	B/C	1.09	項 目	H15再評価※1	H20再評価※2	総事業費	1,681百万円	-	工期	-	H5~H23
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																																						
徒歩30分範囲内の人工林率	65%	77%																																						
項 目	内 容																																							
防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。																																							
林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業（労働生産性が2.5倍に向上）が可能となった。																																							
リサイクルの推進（再生資材の活用等）	以前は林内放置していた間伐材や現地発生材が、丸太柵工や逸散防止策工等に有効利用された。また、ソケット等の塊を破砕した再生砕石を路盤材として利用した。																																							
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																						
総事業費	1,234百万円	1,392百万円																																						
工期	H5~H20	H5~H23																																						
経済効率性	費用	2,702百万円																																						
	便益	2,941百万円																																						
	B/C	1.09																																						
項 目	H15再評価※1	H20再評価※2																																						
総事業費	1,681百万円	-																																						
工期	-	H5~H23																																						

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 < 有・無 ></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 < 有・無 ></p>
<p>(理由) 本地域は林道が開通し森林整備を計画的に実施できる体制が整い、平成14年度以降間伐などの森林整備を約540ha実施し、約6,590m³の木材を搬出している。 今後の森林整備計画についても、県有林管理計画や市町村森林整備計画に基づき、確実に実施される見込みである。 また、当該既設林道と合わせて森林作業道を開設する計画が県有林管理計画にあり、効率的な森林整備の範囲が拡がることが見込まれている。 以上のことから、事後評価を再度実施する必要性はないと考えられる。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 < 有・無 ></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 < 有・無 ></p>
<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 < 有・無 > なし</p>

3. 添付資料シート（1）





① 林道全景



② 沿線の木材搬出状況



③ 沿線の森林整備実施状況（間伐）



④ 林道沿線のヒノキを伐採し、ヒノキを植栽

年度別事業費内訳表（今回変更後の内容）

年度	京戸工区 (千円)	勝沼工区 (千円)	事業概要		進捗率※
			京戸工区	勝沼工区	
H5	0	0			0%
H6		116,000		林道開設工 L=459m	9%
H7		130,000		林道開設工 L=450m	17%
H8		30,000		林道開設工 L=87m	19%
H9	60,000	80,000	林道開設工 L=170m	林道開設工 L=532m	32%
H10	85,000		林道開設工 L=292m		38%
H11	86,000		林道開設工 L=305m		44%
H12	60,000		林道開設工 L=184m		47%
H13	60,000		林道開設工 L=258m		52%
H14					52%
H15	90,000		林道開設工 L=168m		56%
H16	40,000		林道開設工 L=144m		58%
H17	131,500		林道開設工 L=516m		68%
H18	67,000		林道開設工 L=246m		73%
H19	67,000		林道開設工 L=292m		78%
H20	67,000	25,000	林道開設工 L=281m	林道開設工 L=55m	85%
H21	64,000		林道開設工 L=250m		90%
H22	55,000	21,000	林道開設工 L=220m	林道開設工 L=81m	95%
H23		57,000		林道開設工 L=242m	100%
計	932,500	459,000	林道開設工 L=3,326m	林道開設工 L=1,906m	
合計		1,391,500		林道開設工 L=5,232m	

※進捗率=実施延長/総延長×100